

「罪を赦してくださるイエス様」
ヨハネの福音書 8章1節～11節

はじめに

今朝は、「罪を赦してくださるイエス様が主題です。この箇所は、イエス様と姦淫の罪に問われた女性の出会いが書かれています。この出会いは、パリサイ人と律法学者によって姦淫の現場で捕らえられて、連れて来られたことで起きました。

1 パリサイ人と律法学者。

(1) イエス様を試して、告発する口実を得るために。

いまイエス様は、エルサレムの宮におられます。ご生涯の最後の頃で、このままガリラヤには帰らず、十字架の死を迎えられる時の出来事です。イエス様は、宮で人々を教えておられました。

すると、当時の指導者であった律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て、真ん中に立たせました。

彼らの動機は、純粹ではなく、イエス様を告発する口実を得るというものでした。この女性は、彼らに利用されたのです。

もう一つ、彼らの行動には問題がありました。姦淫は、一人で行えるものではありません。女性の相手の男性がいるはずで、姦淫の罪は、女性だけでなく、男性もその罰を問われなくてはなりません。しかし、彼らは、女性だけを罰しようとしているのです。

(2) モーセの律法を引用して、イエスを試しています。

彼らは、イエス様に言いました。「モーセは律法の中で、こういう女は石打ちにするように命じています。あなたは何と言われますか」と詰問しました。姦淫は、男女とも死刑です。ですから、モーセの律法を引用するなら、男性も連れて来るべきでした。

(3) イエスのことばに、すべての人が去る。

彼らの動機とその矛盾した行動をご存知のイエス様は、初めは彼らを見捨て、指で地面に何かを書いておられましたが、彼らが問い続けるので、身を起こし、「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい」と言われました。この一言が、律法学者、パリサイ人をはじめ、そこにいた人々は、一人ひとりそこを去って行きました。「罪のない者」はだれもいなかったのです。

このイエス様のことは、すべての人は神の前で罪人であることを明らかにしました。

2 姦淫の女

(1) 姦淫の罪は、十戒の第7戒で禁じられています。この女性はその罪を犯したのですから、罰を免れません。

(2) この女性を罰しようとした人たちは、いなくなりましたが、彼女はイエスのもとに残りました。これが幸いでした。もし、人々のようにイエスから去ったなら、この女性の救いはなかったでしょう。

救い主から去った人々と、残った女性が対照的です。

3 イエス

(1) 罪を赦す権威を持つ方。

イエス様はその女性に、「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません」と言われました。

ここで示されたのは、罪を赦す権威をお持ちになるイエス様です。ここは、モーセの律法とイエス・キリストの救いが、実に対照的に示されています。

モーセの律法は、義を示すものであり、罪を明らかにし、それを処罰するものです。しかし、イエス様は、罪を赦し、救うのです。

なぜ、イエス様は、罪を赦すのでしょうか。それは、単なる感傷ではありません。お情けではないのです。はっきりした根拠があります。それは、この女性の罪を負って十字架で死ぬからです。ですから、イエス様は罪を赦すことがお出来になるのです。

(2) 今からは決して罪を犯してはなりません。

イエス様は罪を赦しました。でも、罪を許可したわけではありません。罪を犯さないようにとお命じになったのです。

キリスト者は、罪を犯さない生活をするように努めなければなりません。そして、神様は、私たちが罪を犯さない生活が出来るように「聖霊」をお与えになったのです。聖霊は私たちのうちに実を結び、キリストに似た者と変えてくださいます。

結論

イエス様がお出でになることによって、時代は律法の時代から、恵みの時代へ。罪を

責める時代から罪を赦す時代へと大きく変わりました。今は恵みの時、救いの日です。

例話

ある人たちは、死ねばだれでも天国に行けると思っています。それは違います。自分は東京大学に入れると思っても、入れるわけではありません。入れるかどうかは、自分が決めることではなく、東京大学が決めることです。同じように、天国に入れるかどうかは、自分では決められません。神様が決めるのです。神様は、イエス・キリストを信じる者は誰でも天国に入れると約束してくださいました。条件は、イエス・キリストを信じることです。「信じなければだめなのですか」と聞かれます。その人には、「あなたはどうやってあなたの罪をなくしますか」と聞きます。

ある女性の一人息子が事故でなくなりました。そしてその子の心臓はそれを必要としている人に移植されました。その女性は、夫も亡くしていたので再婚することにしました。結婚式の日、彼女は亡くなった息子の席を設けていました。その結婚式に息子と同じほどの年の見知らぬ青年が現れました。そして、「あなたの息子さんは、この結婚式に出席していますよ」と言ったのです。その青年こそ、息子から心臓をもらった青年だったのです。「あなたの息子さんは、今も私の体の中で生きています」。実は、再婚相手がこの日のために、息子の心臓をもらって人を捜し当て、招待したのでした。

イエス様は、十字架で死にましたが、復活して生きておられ、信じる者にイエス様の霊である聖霊をお与えになりました。ですから、イエス様は今、私たちのうちに生きておられるのです。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

(ヨハネ第一 4:10)

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」(黙示録 3:20)

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

(使徒の働き 16:31)

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいま

した。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。